国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

砂防
NEWS

令和元年12月25日
水管理・国土保全局砂防部

台風第19号は台風に伴う土砂災害として過去最多を記録

～令和元年の土砂災害発生件数の速報値を公表～

令和元年の土砂災害発生件数※は1,995件で、**集計を開始した昭和57年以降4番目に多い件数を記録**しました。

また、**台風第19号は、台風に伴う土砂災害としては、過去最多の発生件数を記録しました。**

※ 土石流、地すべり、がけ崩れ等が発生した件数（火砕流は除く）。
1月1日から12月24日までの速報値。

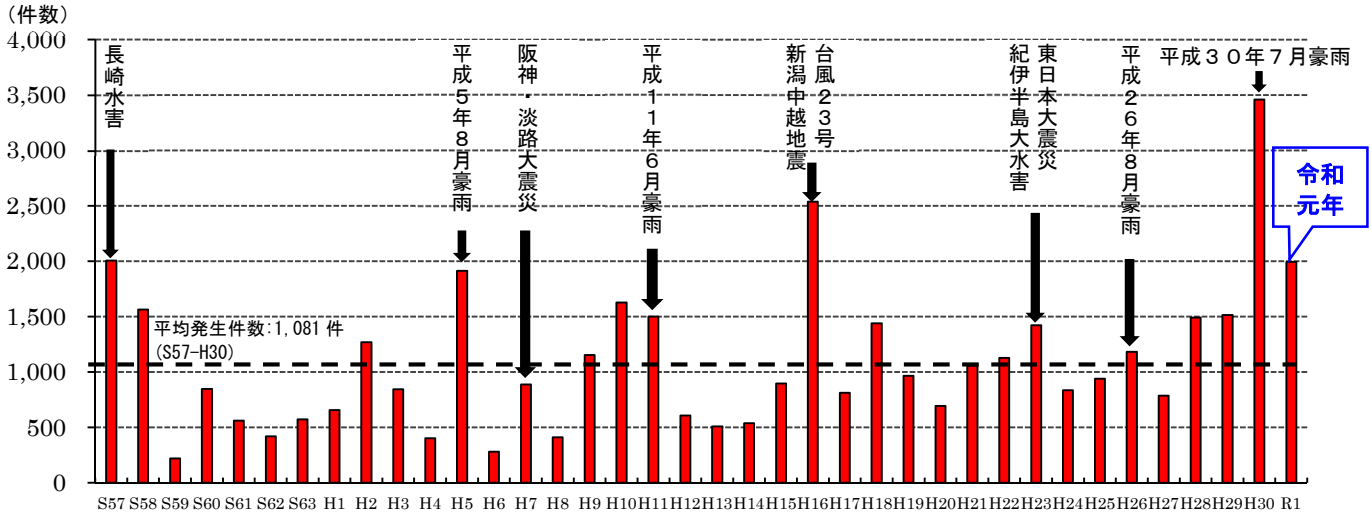


図. 土砂災害発生件数の推移（S57～R1）

今年の土砂災害

1都1道1府40県で1,995件の土砂災害が発生し、昭和57年の集計開始以降4番目に多い。
（1位：3,459件(H30)、2位：2,537件(H16)、3位：2,007件(S57)）

集計開始以降における平均発生件数の約1.8倍（平均発生件数は1,081件（S57-H30））。

台風第19号では952件の土砂災害が発生し、台風に伴う土砂災害としては過去最多。
（これまでの最多件数は、平成16年台風第23号の800件）

（問い合わせ先）
国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部保全課 土砂災害対策室
室長 蒲原 潤一（内線36202）
課長補佐 安藤 詳平(内線36232)
代表：03-5253-8111 直通：03-5253-8470 FAX：03-5253-1611

土砂災害に関する情報は、砂防部HP ： http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sabo/index.html

令和元年全国の土砂災害発生状況(12月24日現在)

別紙1

○令和元年の土砂災害は全国で1,995件発生し、集計を開始した昭和57年以降、**4番目に多い発生件数**で、**集計開始以降における平均発生件数※1の約1.8倍を記録**。
○**1都1道1府40県**で土砂災害が発生し、**死者・行方不明者23名、負傷者12名、人家被害521戸**の甚大な被害が発生。
○台風第19号により被害を受けた20都県のうち、**9都県※2では、過去10年(H21-30)における最多発生件数を上回った。**

土砂災害発生件数
1，995件

土石流等： 478件
地すべり： 99件
がけ崩れ：1,418件

【被害状況】
人的被害：死　　者　22名
行方不明者　1名
負　傷　者　12名
人家被害：全　　壊　73戸
半　　壊　68戸
一部損壊　380戸

※これは速報値であり、数値等は今後変わることもあります

表1．都道府県別の土砂災害発生件数　上位5県（速報値）

	都道府県	件数	死者・行方不明者数	過去10年最多 (H21-30)
1位	宮城県	261件	6名	24件(H27)
2位	神奈川県	214件	3名	134件(H29)
3位	鹿児島県	201件	2名	193件(H22)
4位	千葉県	186件	4名	61件(H25)
5位	福島県	163件	3名	104件(H23)

※1 集計開始以降(S57～H30)の平均土砂災害発生件数：1,081件／年
※2 宮城、福島、茨城、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、長野

8/27 地すべり
長崎県松浦市志佐町高野免（まつうら しさちょう たかのめん）

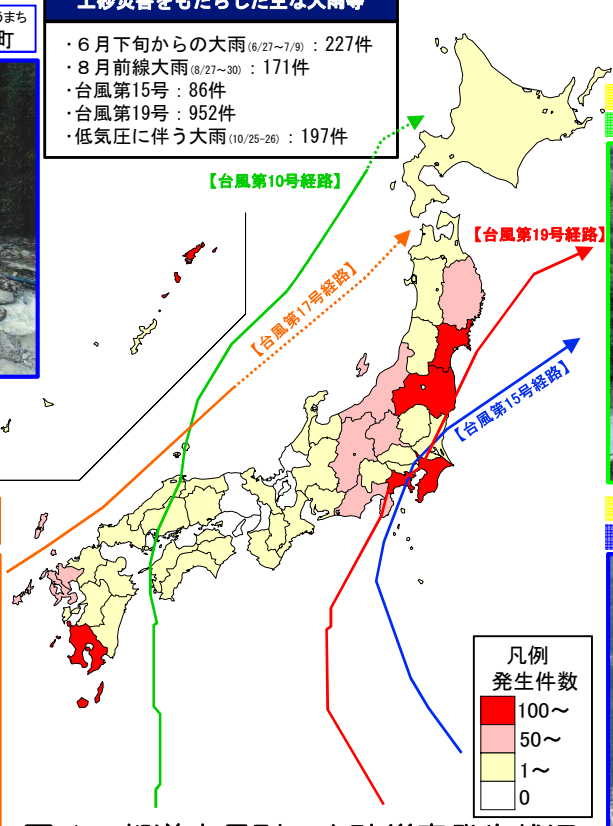
10/12 がけ崩れ
神奈川県相模原市緑区牧野（さがみはら みどり まぎの）

10/25 がけ崩れ
千葉県千葉市緑区誉田町（ちば みどり ほんだちょう）

8/28 土石流等
佐賀県佐賀市金立町（さが きんりゅうまち）

土砂災害をもたらした主な大雨等

・６月下旬からの大雨(6/27～7/9)：227件
・８月前線大雨(8/27～30)：171件
・台風第15号：86件
・台風第19号：952件
・低気圧に伴う大雨(10/25-26)：197件



台風経路の破線は
熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。

10/12 地すべり
群馬県富岡市内匠（とみおか たくみ）

7/4 がけ崩れ
鹿児島県曽於市大隅町坂元（そお おおすみちょう さかもと）

10/13 土石流等
宮城県伊具郡丸森町（いぐ まるもりまち）

図.1．都道府県別の土砂災害発生状況

令和元年の台風による土砂災害発生状況（12月24日現在） 別紙2

○台風により発生した土砂災害は1,101件で、<u>年間の台風による土砂災害発生件数としては、集計開始の昭和57年以降、2番目に多い値</u>となった。

○<u>台風第19号による土砂災害は20都県で952件発生</u>し、これまで集計開始以降最多であった平成16年台風第23号の800件を上回り、<u>過去最多の土砂災害をもたらした台風</u>となった。

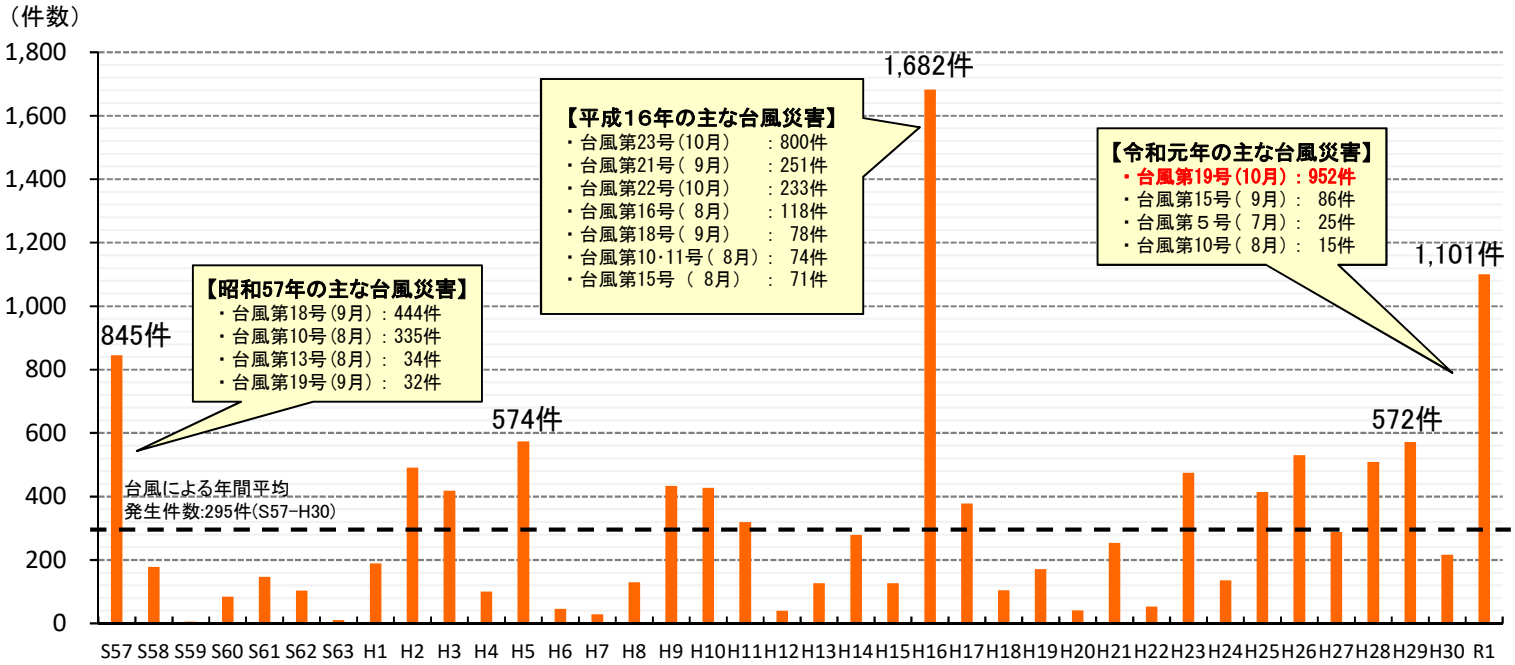


図.2. 年間の台風による土砂災害発生件数の推移

令和元年台風第19号による土砂災害発生状況

土砂災害発生件数
1都19県
952件

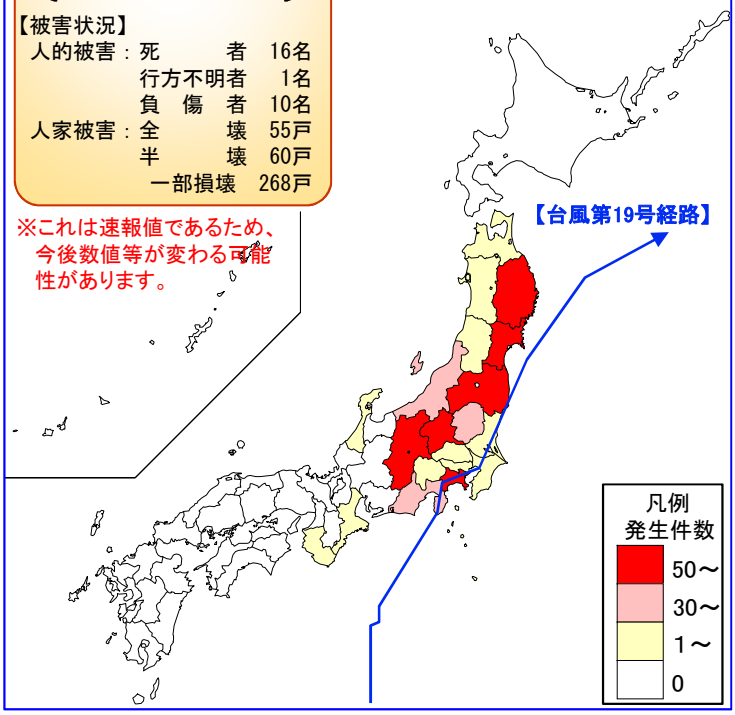
土石流等： 407件
地すべり： 44件
がけ崩れ： 501件

【被害状況】
人的被害：死　　者 16名
　　行方不明者 1名
　　負　傷　者 10名
人家被害：全　　壊 55戸
　　半　　壊 60戸
　　一部損壊 268戸

※これは速報値であるため、今後数値等が変わる可能性があります。

発生件数上位５県

宮城県	254件
福島県	144件
岩手県	98件
神奈川県	94件
群馬県	87件



平成16年台風第23号による土砂災害発生状況

土砂災害発生件数
2府30県
800件

土石流等： 179件
地すべり： 127件
がけ崩れ： 494件

【被害状況】
人的被害：死　　者 27名
　　行方不明者 0名
　　負　傷　者 31名
人家被害：全　　壊 55戸
　　半　　壊 57戸
　　一部損壊 238戸

発生件数上位５県

長野県	143件
香川県	130件
兵庫県	99件
大分県	88件
京都府	46件

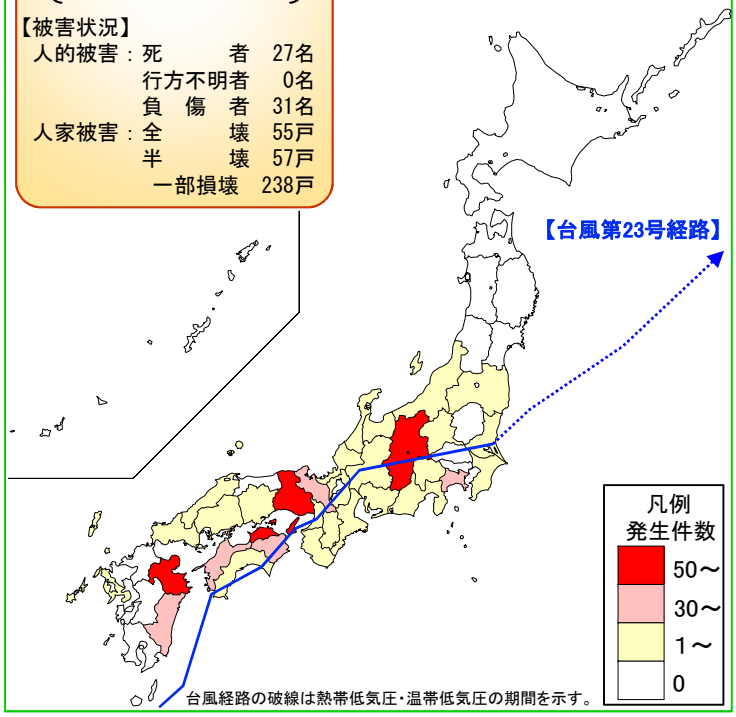


図.3. 令和元年台風19号と平成16年台風第23号との比較

施設整備による事業効果及び施設効果事例

別紙３

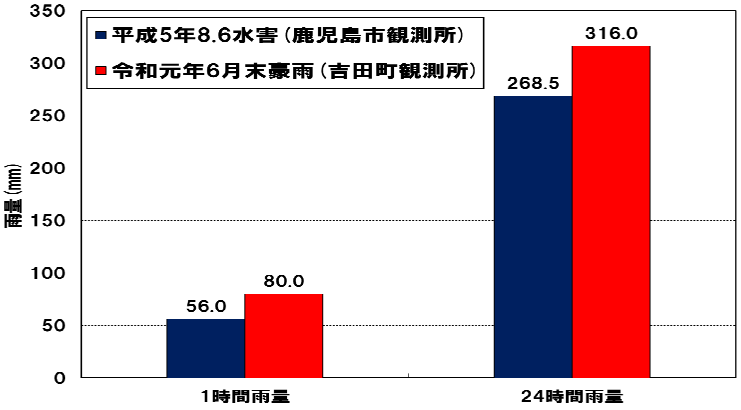
【事業効果】
鹿児島県では、平成5年の8.6水害を契機に、大きな被害を受けた地域等に砂防関係施設を重点的に整備してきた結果、土砂災害発生件数及び家屋被害が減少。

【施設効果】
台風第19号は952件の土砂災害をもたらし、甚大な被害を与えた一方で、砂防関係施設が効果を発揮し、人家等を保全した事例を確認。

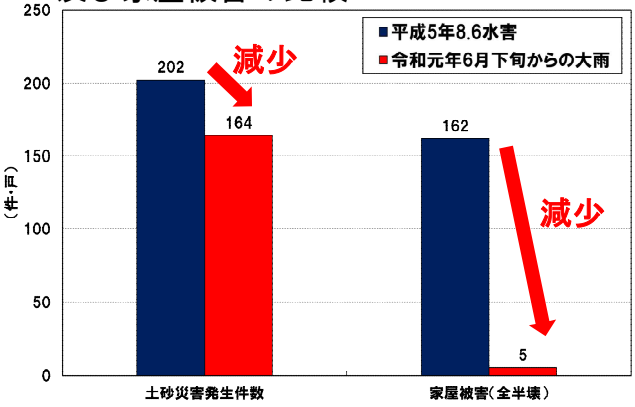
【事業効果の代表事例】

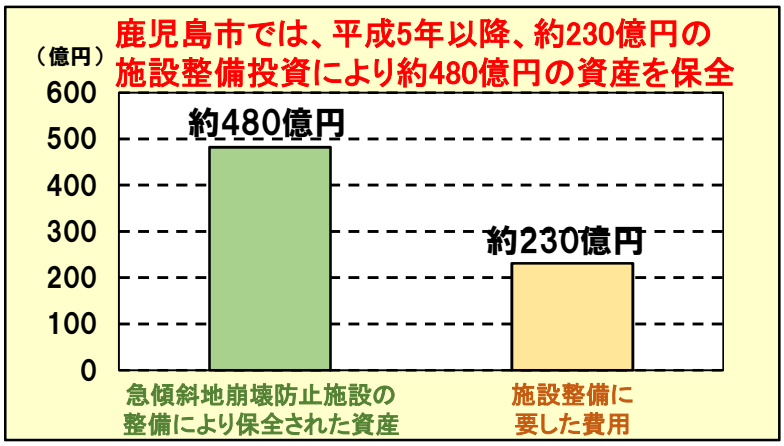
鹿児島県公表資料を基に作成

○降水量の比較

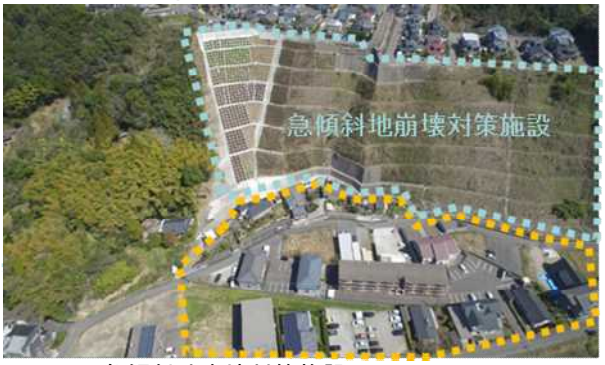


○鹿児島県内における土砂災害の発生件数及び家屋被害の比較





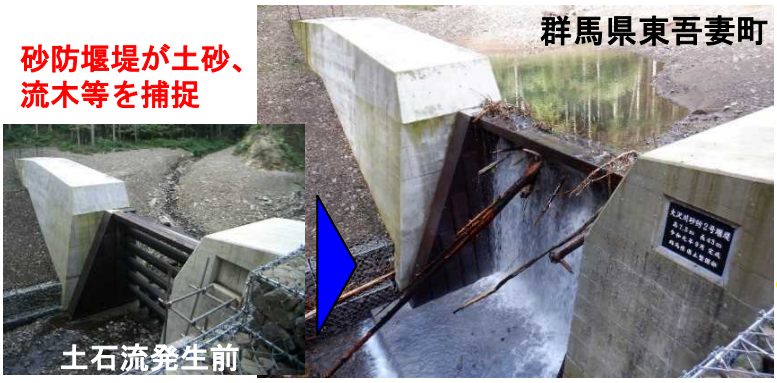
○砂防関係施設の整備事例



急傾斜地崩壊対策施設（鹿児島市田上）

【令和元年台風第19号における砂防関係施設の効果事例】

砂防堰堤が土砂、流木等を捕捉



待受式擁壁が崩壊土砂を捕捉し、斜面下方への流出を防ぐ

土砂災害発生件数(都道府県別内訳)

○北海道・東北地区

北海道：	6件
青森県：	3件
岩手県：	99件
宮城県：	261件
秋田県：	2件
山形県：	6件
福島県：	163件

○関東地区

茨城県：	43件
栃木県：	39件
群馬県：	90件
埼玉県：	28件
千葉県：	186件
東京都：	25件
神奈川県：	214件
山梨県：	15件
長野県：	79件

○北陸地区

新潟県：	85件
富山県：	5件
石川県：	5件

○東海地区

岐阜県：	4件
静岡県：	87件
愛知県：	2件
三重県：	20件

○近畿地区

福井県：	0件
滋賀県：	0件
京都府：	2件
大阪府：	0件
兵庫県：	0件
奈良県：	1件
和歌山県：	6件

○中国地区

鳥取県：	2件
島根県：	6件
岡山県：	3件
広島県：	5件
山口県：	10件

○四国地区

徳島県：	5件
香川県：	1件
愛媛県：	6件
高知県：	42件

○九州地区

福岡県：	3件
佐賀県：	76件
長崎県：	95件
熊本県：	7件
大分県：	10件
宮崎県：	39件
鹿児島県：	201件
沖縄県：	8件

計：1,995件